

平成27年産 秋冬野菜の需給・価格の実績

<概要>

1. 気象
 - 11月は、西日本では低気圧等の影響により、日照時間は1946年統計開始以降で最も少ない記録となった。また、平均気温は、全国的に高い日が多く、特に、中旬以降は記録的な高温となり、沖縄・奄美では1946年統計開始以降で最も高い記録を更新した。降水量は、西日本を中心に低気圧や前線の影響を受け雨の日が多かった。
 - 12月は、日照時間は、北日本と東日本の日本海側では多かったが、その他の地域では少なかった。また、平均気温は、寒気の南下が弱く気温の高い日が続いたため、月平均気温がかなり高かった。特に、東日本では1946年統計開始以降で最も高かった。降水量は、ほぼ全国的に多く、特に、西日本ではかなり多かった。
 - 1月は、気圧の谷や冬型の気圧配置となったため、日照時間は東日本の日本海側、西日本及び沖縄・奄美でかなり少なかった。また、平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美で高く北日本は平年並みだった。降水量は、沖縄・奄美では低気圧や前線の影響で1946年統計開始以降で最も多い記録となった。
2. 生産・供給
 - 冬キャベツは、千葉県産が台風などの影響で生育の停滞があったものの、その後、天候に恵まれ前年を上回る出荷となり、12月以降主産地となる愛知県産は、期間を通して、概ね天候に恵まれ安定的な出荷となった。2月に入り関東産の春系も気温が高く順調な生育による前進出荷で入荷が増えたことから、期間全体で前年及び平年をかなりの程度上回った。
 - 秋冬だいこんは、千葉県産が天候に恵まれ11月中旬までは前年を上回る出荷となったが、価格は総じて低迷し、12月以降、下位等級の出荷調整を行ったことから前年を下回る出荷となった。神奈川県産は、生育が順調で旬を追うごとに出荷量が増加したものの、価格が低迷したこともあり、期間全体では順調な入荷であった前年をやや下回った。
 - たまねぎは、北海道産が11月中は順調な出荷であった前年をかなり大きく下回ったものの、12月以降は、貯蔵物の計画的な安定出荷に加え、1月以降は、静岡県産も期間中は順調な出荷となったことから、期間全体では平年をかなりの程度上回った。
 - 冬にんじんは、北海道産において、11月は前進出荷傾向による残量減の影響により前年をわずかに下回ったものの、12月以降は、主産地の千葉県産において、適度な降雨と気温高により肥大が進み太物傾向で順調に生育し、潤沢な入荷となったことから、期間全体では前年をかなりの程度上回った。
 - 秋冬はくさいは、10月の主産地の長野県産が順調な入荷となり平年をわずかに上回ったものの、11月以降、主産地となる茨城県産が9月の大雨による作付面積の減少や前年が豊作だったこともあり、平年を下回る月が多かったことから、期間全体では平年をかなりの程度下回った。
 - 秋冬レタスは、茨城県産が病害の発生もなく生育が順調で、兵庫県産において低温等により生育の停滞があったものの、その後生育が回復したことから、12月までは平年を上回る出荷となった。1月以降は、香川県産が、低温の影響で前年を下回る出荷となって、期間全体では前年及び平年をかなりの程度上回る出荷となった。
3. 需要・価格
 - 冬キャベツは、11月中旬以降、入荷量が増加したため、11月下旬にかけて急激に値を下げた。その後も前年を上回る順調な入荷により安値基調で推移したことから、期間全体では前年及び平年を大幅に下回った。
 - 秋冬だいこんは、10月から11月かけて旬を追うごとに値を下げた。1月下旬以降、値を上げたものの、期間全体では前年をかなりの程度下回った。
 - たまねぎは、期間を通し主産地の北海道からの入荷が順調であったため、期間全体では前年及び平年を大幅に下回った。
 - 冬にんじんは、11月は平年並みの価格であったものの、12月から1月にかけて価格が下落したことから、期間を通して安値であった前年並みの価格となった。
 - 秋冬はくさいは、12月を除き安値基調で推移した前年を上回ったが、暖冬傾向による消費低迷から期間を通じて安値であった前年を上回ったものの、平年をかなりの程度下回った。
 - 冬レタスは、12月までは入荷が多く平年を大幅に下回った。1月以降、低温の影響で入荷が少なくなり、旬を追うごとに値を上げたものの、期間全体では平年を大幅に下回った。

1. 平成27年産冬キャベツの需給・価格の実績

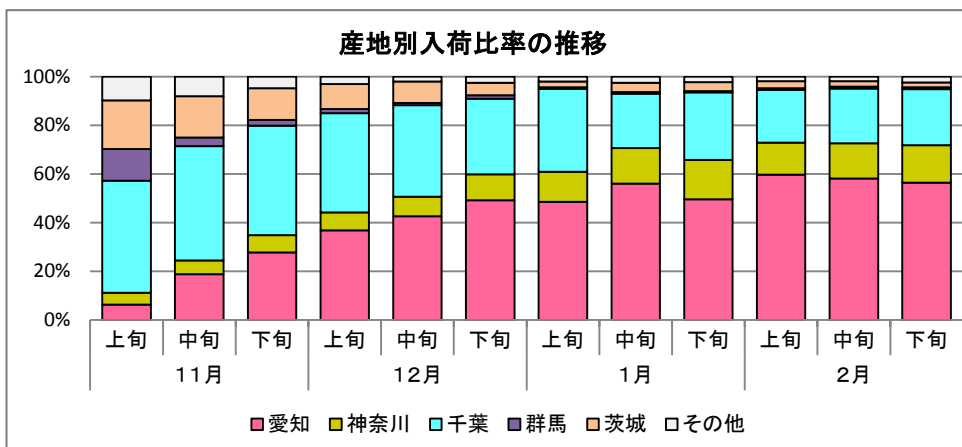
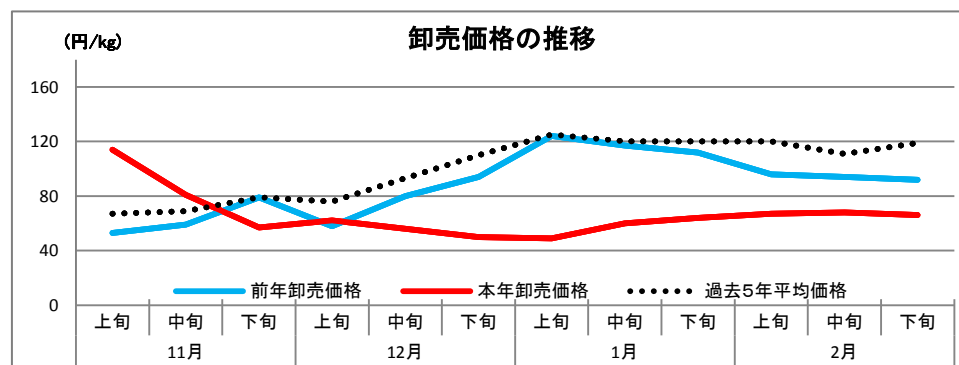
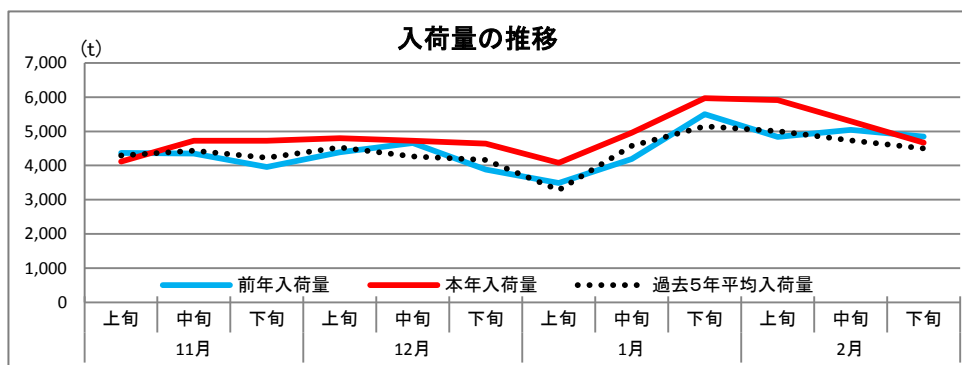
	前回の委員会(27.11.5)での見通し	実績(2月下旬時点)
冬キャベツ (11～3月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、期間を通じて概ね安定した出荷が見込まれ、11月及び3月を除いて前年を上回る見込み。また、加工・業務用対応として九州地域での作付が増加している。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、12月までは前年を上回るが、1月は主産地である千葉産や愛知産が、概ね順調な出荷が見込まれることから前年並み、2月は愛知産が順調に生育していることや台風等でまき直したほ場からの出荷も重なり入荷が増えると見込まれることから前年を下回り、3月は安値であった前年並みの見込み。 加工・業務用は、茨城産の長雨の影響もあり、年内用に中国産を手配している業者がある。ただし、中国産の手配を行っていない業者は、国産を手当する必要があるため、契約産地で対応できなければ、市場から購入するために相場に影響すると考える。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月は、千葉県産において、上旬は台風など天候不順の影響で生育が遅れたものの、中旬以降は天候に恵まれ生育が回復したことから、前年及び平年をやや上回った。 12月以降は、12月が愛知県産において、適度な降雨と気温高により安定的な入荷となったこと、1月が千葉県産において、生育順調で前進出荷傾向となったこと、2月が関東産の春系を中心に生育が順調で前進出荷傾向となったことから、前年及び平年をかなり上回った。 期間全体を通して、前年及び平年ともかなりの程度上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対平年比:110%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月は、上旬には天候不順による入荷減で、前年を大幅に上回ったが、その後、旬を追うごとに大幅な下げ基調となったことから、主産地の入荷が順調で安値であった前年を大幅に上回ったものの、平年をやや下回った。 12月以降は、前月から引き続き、主産地からの入荷が順調であったことから、平年及び前年ともに大幅に下回った。 期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対平年比:63%)

(参考1) 平成27年産冬キャベツの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	94	109	119	109	102	120	117	118	109	122	105	96	110
	107			110			114			108			
過去5年平均比	96	107	112	106	111	111	124	108	116	118	112	104	110
	105			109			115			111			

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	215	137	72	107	70	53	40	51	57	70	72	72	75
	132			73			50			71			
過去5年平均比	170	117	72	82	60	45	39	50	53	56	61	55	63
	97			62			48			57			

(参考2) 平成27年産冬キャベツの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

2. 平成27年産秋冬だいこんの需給・価格の実績

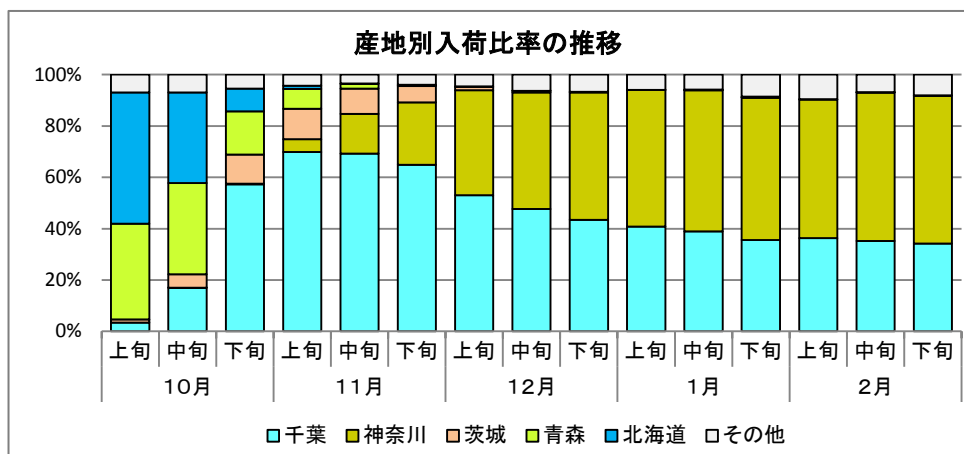
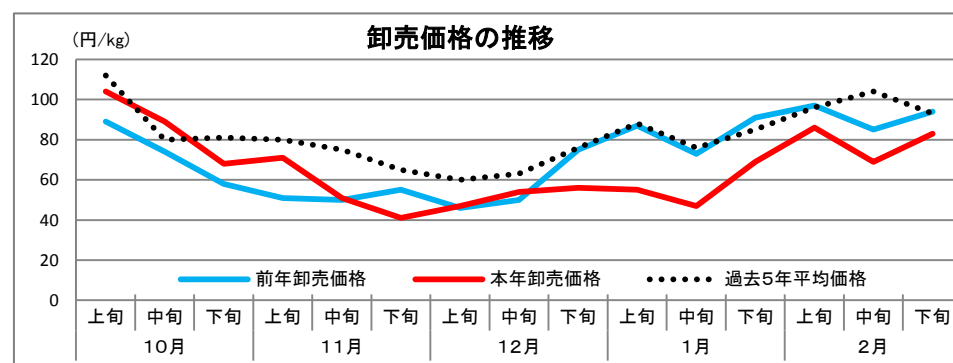
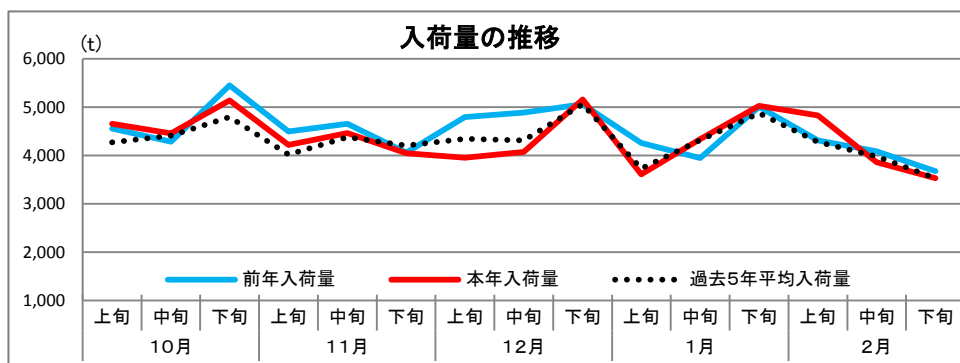
	前回の委員会(27.11.5)での見通し	実績(2月下旬時点)
秋冬だいこん (10～3月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、8月下旬から9月上旬までの長雨の影響で、生育の遅延があったものの、現在、生育は順調であることから、1月及び2月は前年を上回り、その他の月は多かった前年並みの見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、11月から12月は、概ね順調な入荷が見込まれるものの安値であった前年を上回り、1月及び2月は、神奈川産などで順調な出荷が見込まれることから、前年を下回り、3月は安値であった前年並みの見込み。 加工・業務用は、毎年おでん需要が見込まれる時期ではあるが、今年は暖冬の予想もあり、消費が低迷して安値になることも考えられる。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月は、北海道産が前倒し出荷により切り上げが早まったこと、後続の関東産が順調な入荷となったことから、平年をかなりの程度上回り、前年並みの出荷となった。 11月は、千葉県産及び神奈川県産が、全般的には天候に恵れ、順調な出荷となったことから、ほぼ前年並みとなった。 12月は、神奈川県産において順調な出荷となったが、千葉県産で自主的な出荷調整を行ったことから、順調な入荷であった前年をかなり大きく下回った。 1月及び2月は、神奈川県産が前進出荷傾向で旬を追うごとに増えたものの、千葉県産において、前月に引き続き出荷調整を行ったことから前年及び前年並みとなった。 期間全体としては、前年をやや下回り、平年をわずかに上回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:102%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月から11月は、旬を追うごとに値を下げたことから、11月では平年を大幅下回った。 12月は、緩やかに値を上げたものの、引き続き、前年を家内の程度下回った。 1月及び2月は、1月中旬以降値を徐々に上げたものの、前年及び平年を大幅に下回った。 期間全体としては、期間を通じて安値であった前年をかなりの程度下回り、平年を大幅に下回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:81%)

(参考1) 平成27年産秋冬だいこんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	102	104	94	94	96	100	82	83	102	85	110	100	112	94	96	97
過去5年平均比	109	101	107	105	102	96	91	94	102	97	100	103	113	97	100	
	100			96			89			98			101			
	106			101			97			100			104			

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	117	120	117	139	102	75	102	108	75	63	64	76	89	81	88	94
過去5年平均比	93	111	84	89	68	63	78	86	74	63	62	81	90	66	89	
	119			104			93			68			87			
	96			74			79			70			82			

(参考2) 平成27年産秋冬だいこんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

3. 平成27年産たまねぎの需給・価格の実績

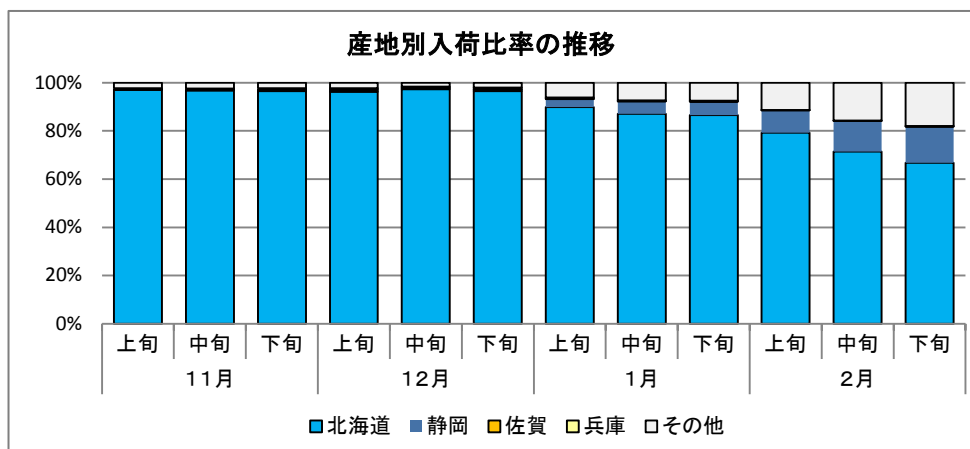
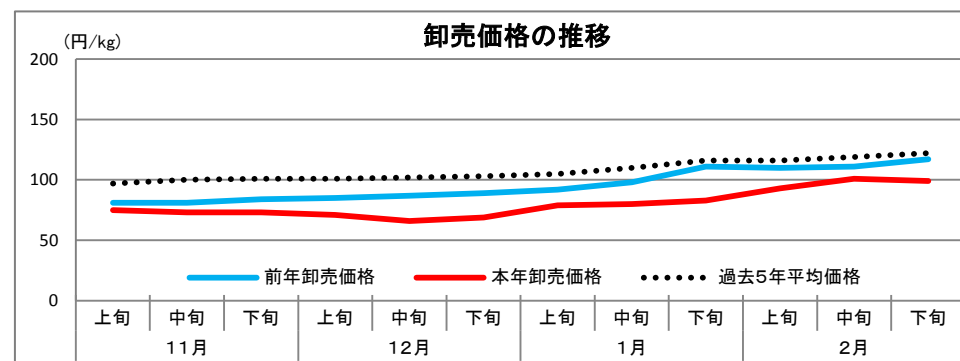
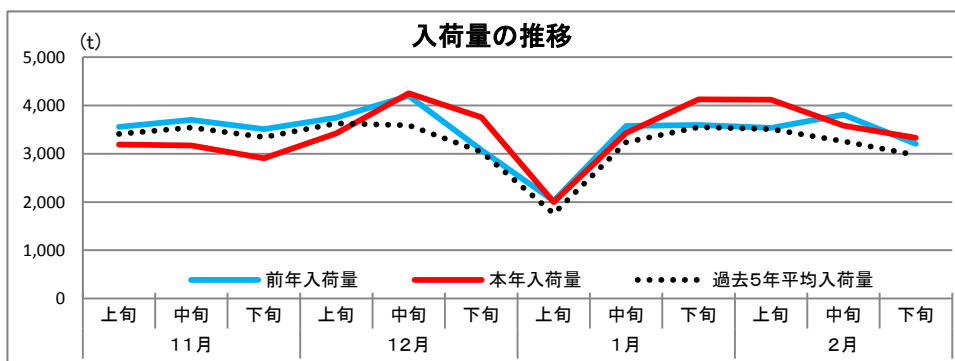
	前回の委員会(27.11.5)での見通し	実績(2月下旬時点)
たまねぎ (11～3月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、天候に恵まれて作柄も良く、11月を除き期間を通じて前年を上回る見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、北海道産が豊作となり、潤沢な出荷が見込まれることから、11月を除き期間を通じて前年を下回る見込み。 加工・業務用は、中国産の作柄が良くないとの情報もあるが、国内での剥き玉業者も限られ、中国産のニーズは堅調であると考え。 現在、国産の剥き玉の価格は、中国産と比較すると50～60円/kg程度高い価格で取引されている。 量販店では、価格が安定すると予想されることから、大量パックやばれいしょ、にんじんなどと組み合わせたセット売りを実施し、消費拡大を図ることとを考えている。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月は、北海道産が天候に恵まれて作柄も良かったが、月を通して順調な出荷となった前年をかなり大きく下回った。 12月以降は、北海道産が貯蔵物の計画的な出荷により、期間を通して順調な出荷となったことから、前年及び平年をかなり上回った。 期間全体としては、ほぼ前年並み、平年をかなりの程度上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対平年比:108%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 期間を通して、主産地の入荷が順調であったことから、前年及び平年を大幅に下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対平年比:75%)

(参考1) 平成27年産たまねぎの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	90	86	83	91	101	122	99	96	115	117	94	104	99
	86			104			104			105			
過去5年平均比	94	90	87	94	119	123	113	106	116	117	110	112	108
	90			111			115			119			

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	93	90	87	84	76	78	86	82	75	85	91	85	84
	89			79			79			88			
過去5年平均比	77	73	72	70	65	67	75	73	72	80	85	81	75
	74			68			72			82			

(参考2) 平成27年産たまねぎの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

4. 平成27年産冬にんじんの需給・価格の実績

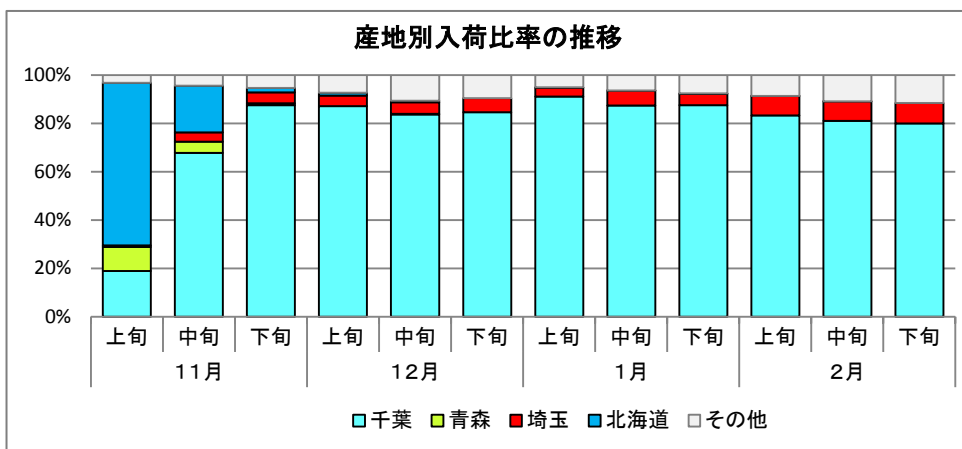
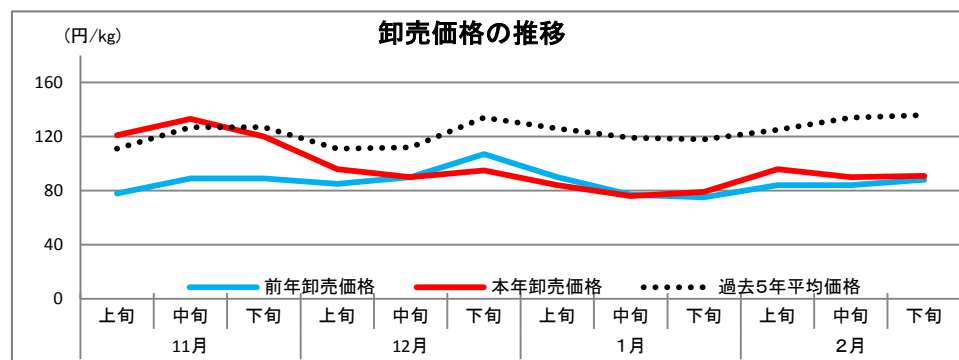
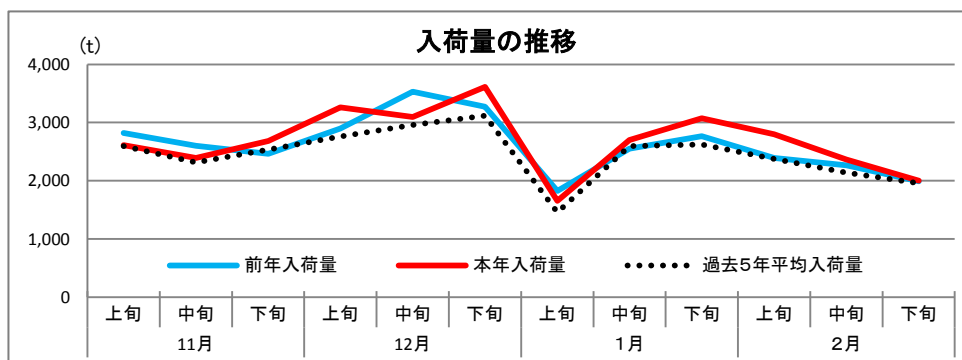
	前回の委員会(27.11.5)での見通し	実績(2月下旬時点)
冬にんじん (11～3月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、8月下旬から9月上旬までの長雨の影響から出荷の遅れはみられるものの、それ以降の天候も安定し、生育は回復傾向であることから、期間全体では前年並みの見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、千葉産や長崎産などで概ね前年並みに出荷が見込まれるものの、期間を通して安値であった前年を上回り平年並みの見込み。 加工・業務用は、外食向けを中心に国内志向が強く、需要は堅調に推移すると考える。しかし、中国産は、品質がよく歩留まりもよいため、一定の需要はある。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月は、北海道産が前進出荷傾向で残量が少なかったが、千葉県産が天候に恵まれ順調な出荷となったことから、前年及び平年並みとなった。 12月から2月は、主産地の千葉県産において、適度な降雨と気温高等により肥大が進み太物傾向となったことから、前年及び平年をかなり上回った。 期間全体としては、前年をやや上回り、平年をかなりの程度上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対平年比:110%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月は、主産地の入荷が順調で安値であった前年を大幅に上回り、平年をわずかに上回った。 12月から2月は、期間を通して下げ基調となり、安値であった前年並みとなり、平年を大幅に下回った。 期間全体としては、安値であった前年をかなり大きく上回り、平年を大幅に下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対平年比:79%)

(参考1) 平成27年産冬にんじんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	93	92	109	113	88	110	91	106	111	117	104	101	103
	98			103			104			108			
過去5年平均比	101	104	106	118	105	116	113	104	117	118	111	102	110
	103			113			111			111			

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	155	149	135	113	100	89	93	99	105	114	107	103	112
	146			99			99			108			
過去5年平均比	109	105	94	86	80	71	67	64	67	77	67	67	79
	102			79			66			70			

(参考2) 平成27年産冬にんじんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

5. 平成27年産秋冬はくさいの需給・価格の実績

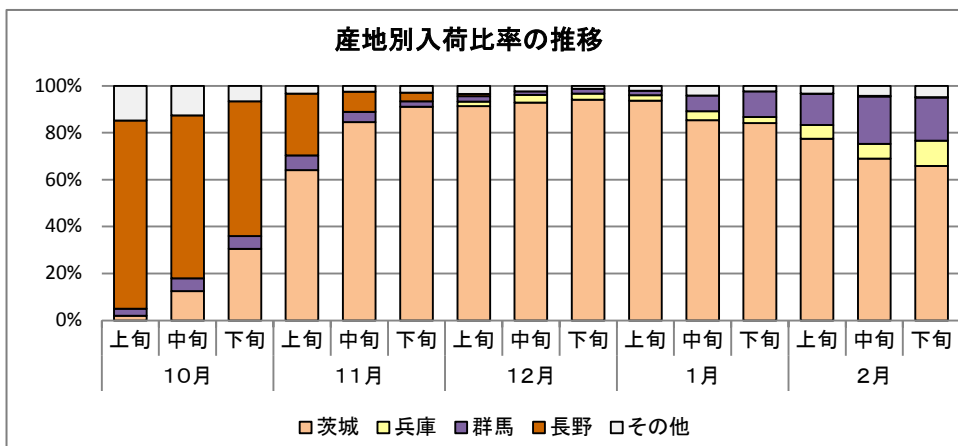
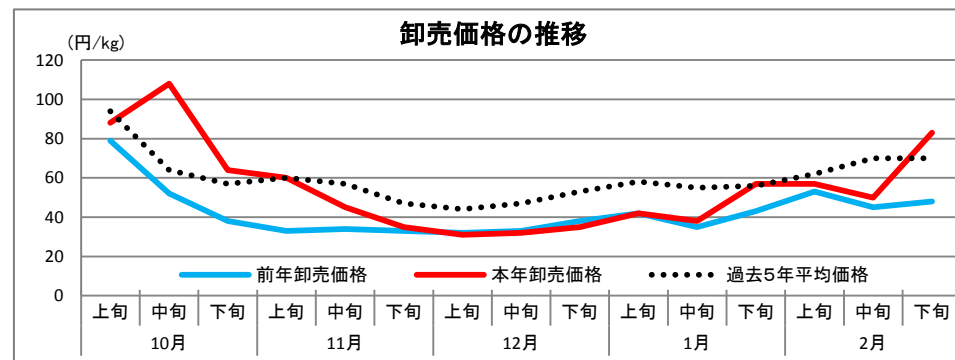
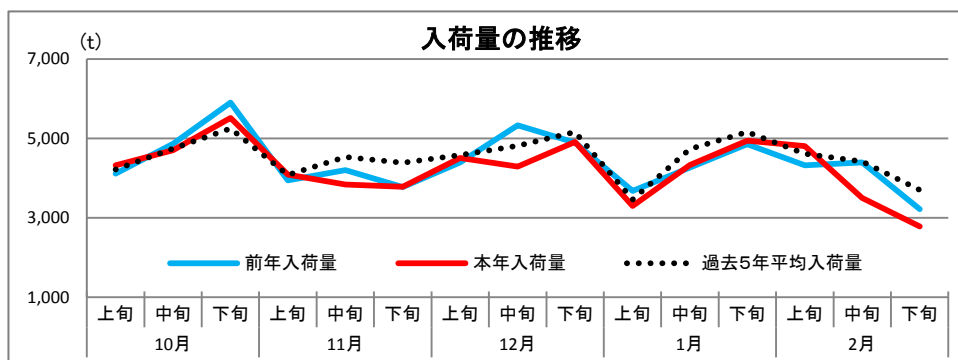
	前回の委員会(27.7.22)での見通し	実績(2月下旬時点)
秋冬はくさい (10～3月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、主産地の茨城産は台風18号の長雨の影響から小玉傾向となることや作付面積の減少から、前年を大きく下回る見込み。愛知産は、1月以降はブロッコリーへの品目転換で作付面積が減少するものの、11月から12月は概ね順調な出荷が見込まれることから、前年を上回る見込み。全体では、愛知産で上回るものの、主産地の茨城産が前年を大きく下回ることから、12月までは前年を下回り、1月以降は低温や降雪の影響で少なかった前年並みの見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、主産地である茨城産が前年に比べて大幅に減少すること等から、3月を除き、安値であった前年を上回る見込み。 加工・業務用は、茨城産のかん水の影響で、原料が少なくなるために業者は年内の売込みを控えた。また、前年の春はくさいの不作の影響から、秋冬はくさいを多めに貯蔵する業者が増えることが考えられる。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月は、主産地である長野県産が、順調な入荷であったことから前年及び平年並となった。 11月から2月は、主産地の茨城県産が病害もなく順調に生育したものの、9月の大雨の影響による作付面積の減少等があったことから前年及び平年ともにかなり下回った。 期間全体としては、前年をやや下回り、平年をかかなりの程度下回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対平年比:94%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月下旬には、入荷が回復し急激に値を下げたものの、中旬までの価格が高かったことから、平年を大幅に上回り、安値であった前年を大幅に上回った。 11月上旬は、平年並みとなっていたが、気温も高く需要が低迷したことから、旬を追うごとに値を下げたことから、主産地からの出荷が順調で安値であった前年を大幅に上回ったが、平年をかかなり大きく下回った。 12月は、11月に引き続き、気温高による需要低迷で安値が続ぎ、平年を大幅に下回った。 1月は、気温が低くなったこともあり、下旬に大きく値を上げ平年並みとなったものの、月間では平年を大幅に下回り、前年をかかなり大きく上回った。 2月は、下旬にかけ大幅に値を上げ安値であった前年を大幅に上回ったが、平年をかかなりの程度下回った。 期間全体としては、前年を大幅に上回り、平年をかかなりの程度下回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対平年比:93%)

(参考1) 平成27年産秋冬はくさいの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比(前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	105	97	94	104	91	100	102	81	100	90	102	102	111	80	86	96
	98			98			94			98			93			
過去5年平均比	103	99	105	100	85	86	98	89	95	95	92	96	104	79	75	94
	102			90			94			94			87			

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	111	208	168	182	132	106	97	97	92	100	109	133	108	111	173	131
	157			142			97			115			127			
過去5年平均比	94	169	112	100	79	74	70	68	66	72	69	102	92	71	119	93
	121			87			69			82			91			

(参考2) 平成26年産秋冬はくさいの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

6. 平成27年産の冬レタス需給・価格の実績

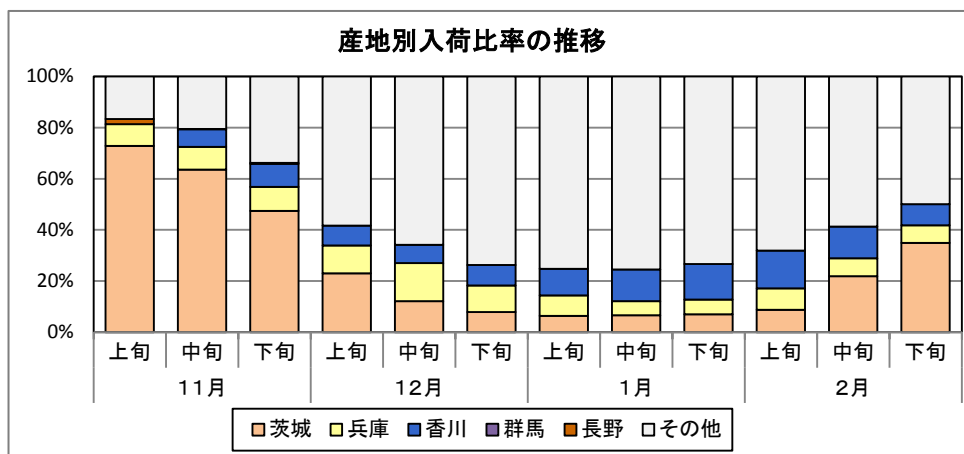
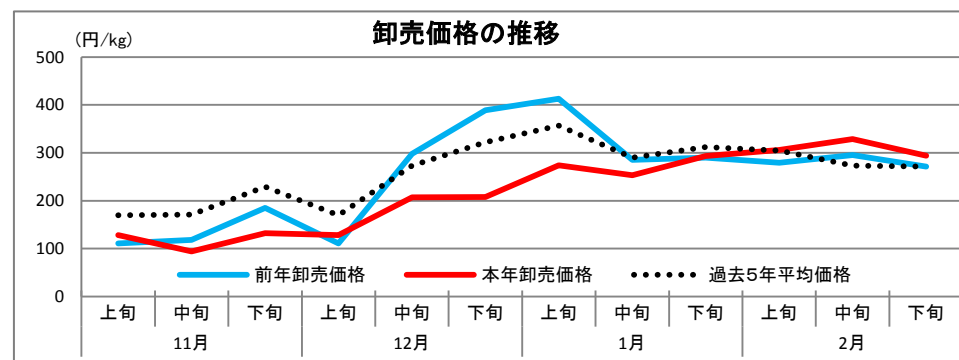
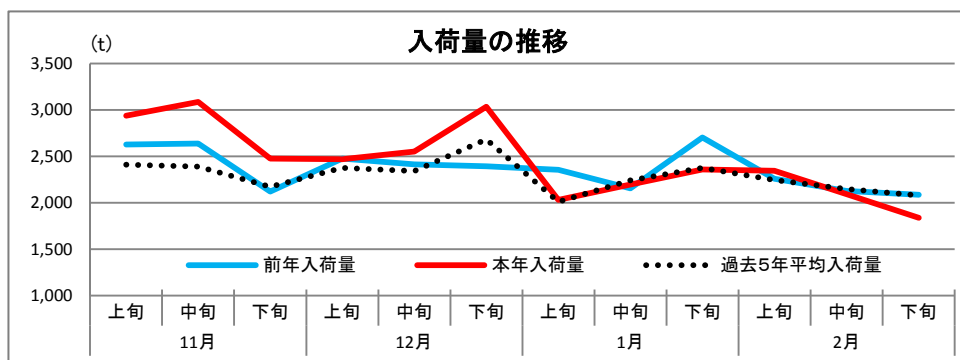
	前回の委員会(27.7.22)での見通し	実績(2月下旬時点)
冬レタス (11～3月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、主産地の生育は概ね順調であることから、11月を除き期間を通じて前年を上回る見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、11月は安値であった前年を上回る見込み。12月以降は、茨城産から静岡産などへの産地の切り替えとなるが、順調な入荷が見込まれることから前年を下回る見込み。 加工・業務用は、九州地域での契約産地を拡大しており、生産量全体の7～8割を契約している産地もでてきている。 12月以降は台湾産を使用する業者も増えている。また、本年は台風が多かったので時期ごとに出荷量にバラツキがでる恐れもある。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月は、主産地である茨城県産が、病害の発生もなく生育が順調であったことから、前年及び平年を大幅に上回った。 12月は、兵庫県産が低温等による生育停滞があったものの、静岡県産が順調に生育したことから、前年及び平年をかなりの程度上回った。 1月は、静岡県産が順調に生育したものの、香川県産をはじめ他の産地において、急激な冷え込み等で入荷が伸びず、前年をかなりの程度下回った。 2月は、上旬は平年を上回っていたものの、静岡県産の前進出荷等の影響により、旬を追うごとに減少したことから、平年をやや下回った。 期間全体としては、前年をやや上回り、平年をかなりの程度上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対平年比:107%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月は、中旬までは緩やかな下げ基調で推移し、その後は、日を追うごとに値を上げたものの、潤沢な入荷により安かった前年を更に下回って推移する等、平年を大幅に下回った。 12月は、上旬に一時的に前年を上回り、年末に向けて緩やかに値を上げたものの、前月までの安値基調により、平年を大幅に下回った。 1月は、旬を追うごとに緩やかな上げ基調となり、下旬には前年を上回ったものの、平年及び前年を大幅に下回った。 2月は、中旬にかけて値を上げ平年を上回り、下旬には下げに転じたものの、平年をかなりの程度上回った。 期間全体としては、前年をかなりの程度上回り、平年を大幅に下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対平年比:82%)

(参考1) 平成27年産冬レタスの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	112	117	117	100	106	127	86	102	87	104	98	88	104
	115			111			91			97			
過去5年平均比	122	129	114	104	109	113	101	98	99	104	97	88	107
	122			109			99			97			

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	115	80	71	115	69	53	66	89	101	110	112	108	85
	87			72			84			110			
過去5年平均比	75	55	58	75	76	65	77	87	94	100	121	108	82
	62			75			86			110			

(参考2) 平成27年産冬レタスの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター